

## 要旨

家族関係（きょうだい構成、親の養育態度、家庭内の雰囲気など）の中で形成される性格には、どのような傾向がみられ、何か共通点はあるのだろうか。本研究は、“家族関係が子どもの性格形成に及ぼす影響”を明らかにするために、E大学の学生1～4年生（193名）を対象に質問紙によって調査を行った。質問項目には、きょうだい位置、親の養育態度、家族との会話量、自身の性格に関するものなど、家族関係及び性格に関する質問をいくつか設けた。ご協力いただいた57名の回答をもとに、きょうだい関係と性格特性との関連、また、親子関係と性格特性との関連に分けて分析を行った。

第1章では、そもそも性格とは何かについて先行研究を整理し、性格の定義、性格研究の歴史、ビッグファイブ理論に基づいた5つの性格特性について述べた。さらに、個性を形成するものとして遺伝的要因・環境的要因・自己形成の三つの要因が挙げられ、性格を発達させるものとしては家族との人間関係や友人との関係、学校集団での人間関係が関わっているということが明らかになった。

第2章では、“きょうだい関係による性格への影響”について述べた。まず、これまでの先行研究を読み解き、きょうだい位置別によってどのような性格の傾向があらわれるのかを明らかにし、きょうだい位置と性格との関連を述べた。その後、質問紙調査によって得た回答をもとに、きょうだい位置別による性格の傾向を調査した。先行研究と比較し、きょうだい位置別による性格特性が明らかになった。また、異性きょうだいの有無による性格への影響に関して、今回の結果からは見出されなかった。

第3章では、“親子関係による性格への影響”について述べた。まず、これまでの先行研究を読み解き、子どもの性格を形成していくうえで親の影響力は大きい、ということが明らかになった。さらに、親の養育態度の分類、また、親の養育態度による子どもの性格の傾向を述べた。その後、質問紙調査によって得た回答をもとに、親子関係による性格の傾向を調査した。親の養育態度、両親からの呼ばれ方、両親との会話量、家族の雰囲気において、性格への影響を分析した。また、他人から持たれるイメージと家族関係との関連においても検討した。父親とのコミュニケーションの有無は性格形成に大きな影響を与えていることが示唆される興味深い結果が得られた。

最後に、第4章では、先行研究と筆者の調査結果を比較検討し、家族関係が性格形成に及ぼす影響について考察した。